



学校だより

さいたま市立第二東中学校

令和4年12月1日 発行

〔第8号〕

— 学校教育目標 —

輝く笑顔 二東生

『 愛の反対は… 』

校長 春山 悟

「師走」早いもので十二月を迎えました。二十四節気では、「小雪」を過ぎ、もうすぐ「大雪」。雪がわずかながら降り始める季節となります。地域、保護者の皆様には、日頃より本校教育のために、ご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。これからの季節、ますます寒くなります。どうぞご自愛なさって健やかに過ごしてください。

さて、3年生にとって12月は進路を決定する大切な時期。10月下旬より3年生との校長、教頭による面接練習も中盤に入りましたが、「志望校を選んだ理由は何か」「高校に入学したら何をしたいか」「中学校生活の思い出は何か」といった質問に、3年生は緊張した面持ちで懸命に答えようとする姿から希望する高校に入学したいという強い思いが伝わってきます。面接終了後、様々なアドバイスをしていますが、皆さんにとって一番難しかったのは、自分の長所やアピールポイントをあげ、それを希望する高校に入学したら、どのように活かしていくかを伝えることだったのではないのでしょうか。多くの中学生は自分の良さをアピールすることが恥ずかしかったり、見つけられなかったりするものです。弱点ばかりをさがしてしまう人もいるかもしれません。中学生の皆さんにとって自分を客観視することは重要な成長課題でもあります。長所がない人はいません。面接では、自分の良さをしっかりと言葉で伝えることができるようになって欲しいと思います。

ところで、12月10日は世界人権宣言が採択された日であり、日本でもこの日を「人権デー」と定めています。本校でも9月中旬に人権集会を開催しましたが記憶に残っていることと思います。ノーベル平和賞を受賞した修道女であり、平和活動家であった「マザー・テレサ」の言葉に「愛の反対は…」という言葉があります。マザー・テレサは、インドのカルカッタで貧困と病気に苦しむ人々に、愛の手を差し伸べました。倒れている人に対して無関心でいることは、人として悲しいことで、それは、一人の人間としての人権を大切にしていないと。更にマザー・テレサは、「この世で最大の不幸は、戦争貧困などでなく、人から見放され、自分は誰からも必要とされないと感じるることなのです」といっています。学校では多くの生徒や先生方が、毎日生活しており、人間関係のトラブルも全くないとはいえません。その中で、友だちがいじめられていることを知りながらも関心を示さない。このことがいじめの事件で悲劇を生む原因の一つでもあると思います。この世の中で、必要のない人などいません。一人ひとりが、かけがえのない『命』をもった、大切な一人ひとりの人間です。だから大切なことは、自分にも、友だちにも、周りの人たちにも、関心をもつことだと思います。マザー・テレサは、「愛の反対は、憎しみではなく無関心です」と、言っています。第二東中では、いじめを出さないために、二者面談や担任の先生との生活ノート、心と生活のアンケート等を実施していますが、困っていること、悩んでいることがあったら、遠慮なく担任、部活顧問、教科担任の先生に相談してください。また、自分のことだけでなく、友だちのことでも結構ですので、悲しい思いをしている友だちがいたら、見て見ぬふりをするのではなく、自分のこととして考えてください。「愛の反対は、憎しみではなく無関心です」お互いがお互いを大切にして、笑顔輝く、いじめのない第二東中学校にいきましょう。